

1. 評価結果概要表

作成日 2008年5月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0873500144
法人名	株式会社 シルバーライフサポート木の実
事業所名	グループホーム 木の実
所在地	茨城県日立市十王町友部東2-1-19 (電話) 0294-39-6841

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年5月22日	評価確定日	平成20年10月6日

【情報提供票より】(平成20年4月21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	5人, 非常勤 16人, 常勤換算 4.2人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3階建ての	1階～	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 800円			

(4)利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	19名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	名		
年齢	平均 86歳	最低	75歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	福島クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは駅前に位置し図書館や公園など利用者が常に活用できる公共施設が多くある環境にある。地域との交流も盛んで、1階の交流スペースを活用し地域住民と利用者、その家族、職員が交流を持てるようイベントなどが行なわれている。利用者だけでなく、家族や地域住民の意見を取り入れる体制作りを管理者はじめ職員は心掛けている。常に向上心をもって高齢者のケアに取り組んでいるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受けて、終末期の受け入れ方針についてホーム側の指針を家族に示し、説明を行なっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を行なうにあたり、職員の意見や取り組み内容を確認しながら、管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度開催されており、ホームの行事報告や終末期への取り組み、ホームへの要望などを確認する場となっている。議事録についても利用者家族や行政への提出を行なっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に対話の時間を取ったり、必要に応じてアンケートなどを行なっており要望や苦情を受ける体制作りをしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの1階を多目的スペースとしており、ホーム主催のイベントに地域の方が気軽に参加できる環境にある。また、散歩中の挨拶や季節のものを頂いたり日常的な関わりを常に持っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者中心の介護と地域や家族との連携を常に確認できるような理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は常に職員と理念を振り返りながら「利用者の立場に立ったケア」の提供がされているかを確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の友人や地域の方が気軽に立ち寄れる環境になっている。地域の方はボランティアの紹介や季節の装飾などを行い訪ねて来る。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価を受けることでケアの見直しや向上につながることを意識しながら改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議の開催により地域の方や家族からの意見が多く出るようになり、ホームの運営に関しての助言も頂いている。		

茨城県 グループホーム木の実

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護相談員が月に1度来所している。また、メールや電話でのやり取りを行ないながらサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>地域へのグループホームや認知症の理解に行政と協力・連携を取りながらのさらなる啓発を継続されたい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>金銭管理の報告だけでなく、日々の利用者の様子などを通信で報告したり、運営推進会議の議事録の配布、健康状態の報告を常に行なっている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>アンケートを実施して要望の確認をしている。また、かかりつけ医以外の専門医への受診の要望などが挙げられ、対応できる体制を作った。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新人職員は利用者の理解が十分できるよう、ユニット長と連携しての勤務としているため、離職や配置換えによる大きな混乱はない。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の社内研修・社外研修の計画が立てられており、業務として行なう体制になっている。また、職員の資格取得についても積極的にサポートしている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>社会福祉協議会が中心となつての会議や事例検討会などでの情報交換を積極的行なっている。</p>		<p>今後も管理者の積極的な取り組みを行ないながら施設間の相互交流の実現を期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の協力を得ながら利用希望者の見学や行事への参加を行ったり、昼食や入浴のサービスを利用しながら馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事や季節の行事、地域の歴史など日常生活の中で教わるが多くある。また、利用者同士の関係から対応の方法などを学ぶことも多くある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用や利用者への生活などの意向を確認するアンケートを実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の意向の確認を必ず行い、家族の意向、職員の情報を集めての計画作成を行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者会議の場やモニタリングシートを活用して見直しが行なわれている。また、日々の記録でも計画に沿った内容となっているため見直しが行ないやすい。		

茨城県 グループホーム木の実

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症に関する相談業務を常に行なっている。また、法人内の訪問介護などの利用や他のサービスへの紹介などその都度ニーズに対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間緊急時に対応可能な協力病院があり、往診にも対応してくれる環境にある。また、家族や利用者の希望の医療機関への対応も行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームにおいてのターミナルケアの指針を作成している。ケアの内容なども含まれており、家族への説明も行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけについては常に馴れ合いの関係にならないように確認しあいながらケアにあつたている。個人情報の取り扱いについても、詳細な項目の書式の整備がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に日々をどのように過ごして生きたいかを確認し、要望に答えられるように取り組んでいる。		

茨城県 グループホーム木の実

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から調理、片付けを利用者が日常的に行なっている。また、外食なども行い利用者の楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日はほぼ決まっているが、夜間入浴や利用者の希望の時間での入浴を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中から自然に役割が決まっており、利用者の楽しみともなっている。また、図書館や外出、散歩などの気晴らしの支援も行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外食、季節の花見など常に利用者の希望を確認しながら支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に鍵は掛けない状態にあり、利用者が戸外に行きたいときには言葉かけを行なっている。死角となる入り口はセンサーで対応しているが改善策を探している。		今後も常にチャイムやセンサーに対しての改善策を検討し、取り組んでいくことを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立合いのもと、総合訓練として火災訓練を行なっている。夜間想定消防訓練も行なっているが、地震想定についてはまだ行なっていない。	○	地震想定訓練を行なうとともに、非常食などの備蓄を整備していくことも望まれる。

茨城県 グループホーム木の実

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談しながら献立の作成を行なっている。また、水分や食事量の確認も常に行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾があり、家庭的な雰囲気になっている。騒音もなく居心地の良い空間作りがされている。		今後も工夫を重ね、続けていくことで家庭的な空間作りを保っていただきたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の大切にしてきた物や馴染みの物が置かれている。また、希望者には施設長が作成した畳の台が置かれより寛げる空間作りがされている。		